

資料提供年月日	令和3年1月26日	
問い合わせ先	課名	文化振興課
	電話	直通 803-1054 内線 3744
	担当 (職・氏名)	課長 佐藤 副主幹 上林 主事 山根

## 広報連絡 〈市長定例記者会見資料〉

- 1 件 名 第36回「坪田譲治文学賞」の受賞作決定について
- 2 趣 旨 岡山市出身でわが国の児童文学に多大な功績をのこした故・坪田譲治氏（岡山市名誉市民）をたたえる「坪田譲治文学賞」の本年度の受賞作決定について発表します。
- 3 受賞作 『もうひとつの曲がり角』 講談社  
岩瀬 成子（いわせ じょうこ）著
- 4 選考経過 令和元年9月1日から令和2年8月31日までの1年間に、全国で刊行された小説・児童文学等の中から、小説家・児童文学者等から推薦された96作品について、予備選考会を経て候補作5作品を選定しました。  
これらを令和3年1月19日（火）開催の選考委員会において審査し、上記の作品が選ばれました。
- 5 贈呈式・記念行事  
○日 時：令和3年2月20日（土）14：00～15：00  
○場 所：岡山市立市民文化ホール（中区小橋町一丁目1-30）
- 6 問い合わせ先  
岡山市文学賞運営委員会事務局  
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1 岡山市文化振興課内  
TEL：086-803-1054 FAX：086-803-1763  
E-mail：bunkashinkou@city.okayama.lg.jp

### [添付資料]

- 資料1 第36回「坪田譲治文学賞」受賞作について
- 資料2 「坪田譲治文学賞」について
- 資料3 「坪田譲治文学賞」受賞作一覧
- 補足資料 取材について

## 第36回「坪田譲治文学賞」受賞作について

(文中敬称略、50音順)

受賞作	『もうひとつの曲がり角』 講談社
受賞者	岩瀬 成子 (いわせ じょうこ)
正賞	賞状及び記念品 (メダル『鳥の少年』蛭田二郎作)
副賞	100万円

### ◆選考経過

令和元年9月1日から令和2年8月31日までの1年間(※)に全国で刊行された小説、児童文学等の中から、小説家・児童文学者等から推薦された96作品について、「大人も子どもも共有できる世界を描いたすぐれた作品」という観点で、予備選考会を経て候補作5作品を選定。

これを、令和3年1月19日(火)開催の第36回坪田譲治文学賞選考委員会(会場:東京都千代田区平河町「ルポール麹町」)で慎重に審査した結果、岩瀬 成子著『もうひとつの曲がり角』が選ばれた。

選考委員は、阿川佐和子、五木寛之、川村湊、中脇初枝、西本鶏介、森詠、森絵都の7名。

※選考の基準日は9月1日(岡山市文学賞条例施行規則第2条)

### ◆受賞者略歴

作家 岩瀬 成子 (いわせ じょうこ)

1950年8月25日山口県生まれ。山口県岩国市在住。1978年『朝はだんだん見えてくる』で日本児童文学者協会新人賞を受賞。『うそじゃないよ』と谷川くんはいった』で産経児童出版文化賞・小学館文学賞・IBBY オナーリスト賞、『ステゴザウルス』『迷い鳥とぶ』で路傍の石文学賞、2008年、『そのぬくもりはきえない』で日本児童文学者協会賞、2014年、『あたらしい子がきて』で野間児童文芸賞、2015年、『きみは知らないほうがいい』で産経児童出版文化賞大賞を受賞。

### ◆受賞者コメント

どの人の中にも、子どもだったときは生きつづけています。楽しかった思い出も、辛い思いをしたことも、ないまぜになって胸のどこかにあり、内側から生きる力を支えているような気がします。『もうひとつの曲がり角』は、人の中でいつまでも生き続ける子どもの時間について書きました。そして、大人の中に眠る子どもの時間にゆさぶりをかける子どもについても書きました。

この作品で坪田譲治文学賞を受賞しましたことを、たいへんありがたく、嬉しく思っています。

**◆作品の概要**

小学五年の朋と中学一年の兄は二ヶ月前、母の理想の新しい家に、市の東側から西側へ引っ越してきた。朋は新しい町で、将来のためにと母に勧められて行きだした英会話スクールに行きたくないと思っていた。ある日、英会話スクールが休講だったので、ふと通ったことのない道へ行ってみたいくなる。道のずっと先には道路にまで木の枝が伸びている家があり、白い花がちらほらと咲いていた。そこには「ダンサー」という古い喫茶店があり、庭でオワリさんという名前の不思議なおばあさんが朗読をしていた。朋は英会話スクールへ行かずに、たびたびその曲がり角を曲がってオワリさんを訪ねるようになる。だが、ある日、曲がり角を曲がると、なぜか「ダンサー」は見つからず、かわりにレンガ塀の上のみっちゃんという朋より少し背の高い女の子がいた。朋はみっちゃんとも仲良くなっている。

**◆選考委員のコメント 森 絵都（小説家）**

深刻な心の傷を巡る話が目立った今回の候補作の中で、受賞作『もうひとつの曲がり角』の主人公・朋の悩みは「英会話スクールに行きたくない」という素朴なものでした、が、彼女にとってそれは、時空を超えた何処かへ迷いこむほど切実な問題でもありました。

不思議な出会いによって朋の日常に開かれる穴。そこから流れこむ瑞々しい風景――。

圧倒的な筆力をもって語られる朋の冒険は、時代を問わず常にどこか閉ざされた場所にいる子供たちを、揺さぶり、くすぐり、ほぐしてくれる極上のプレゼントとなるに違いありません。

**◆【参考】今後の日程**

○贈呈式・記念行事 令和3年2月20日（土）14時～15時

〔岡山〕岡山市立市民文化ホール

○祝賀会 令和3年3月18日（木）18時30分～20時

〔東京〕ホテルルポール麹町

## 「坪田譲治文学賞」について

(文中敬称略、50音順)

岡山市出身で、わが国の児童文学に新しい分野を拓いた坪田譲治のすぐれた業績を称えると共に、市民の創作活動を奨励し、市民文化の向上に資することを目的として、昭和59年12月に「坪田譲治文学賞」を制定しました。

### ◆坪田譲治文学賞

[目 的] 岡山市出身の小説家・児童文学作家で、岡山市名誉市民の坪田譲治の文学活動における偉大な業績を称えるとともに、市民の創作活動を奨励し、市民文化の向上に資する。

※坪田譲治 (つばた じょうじ)

明治23年(1890年)3月3日生～昭和57年(1982年)7月7日没

[対 象] 9月1日を基準日とし、前1年間に刊行された文学作品(小説、児童文学等)。

[選 考] 文学・出版関係者等から推薦された作品について、「大人も子どもも共有できる世界を描いたすぐれた作品」という観点で、予備選考会を経て候補作4～6作品程度を選定。その中から選考委員が最終選考を行い、受賞作を選定する。

[表 彰] 正賞 賞状及び記念品(メダル『鳥の少年』蛭田二郎作)

副賞 賞金100万円

[選考委員] 阿川佐和子、五木寛之、川村湊、中脇初枝、西本鶏介、森詠、森絵都(7名)

## 「坪田譲治文学賞」受賞作一覧

回次	年度	作品名	著者名	出版社名
第1回	S60	心映えの記	太田 治子	中央公論社
第2回	S61	ふたつの家のちえ子	今村 葦子	評論社
第3回	S62	ぼくのお姉さん	丘 修三	偕成社
第4回	S63	四万十川ーあつよしの夏	笹山 久三	河出書房新社
第5回	H1	身がわりー母・有吉佐和子との日日	有吉 玉青	新潮社
第6回	H2	おどる牛	川重 茂子	文研出版
第7回	H3	こうばしい日々	江國 香織	あかね書房
第8回	H4	卵洗い	立松 和平	講談社
第9回	H5	半分のふるさとー私が日本にいたときのこと	李 相琴	福音館書店
第10回	H6	オサム朝	森 詠	集英社
第11回	H7	泣けない魚たち	阿部 夏丸	ブロンズ新社
第12回	H8	ぼくたちの<日露>戦争	渡辺 毅	呂書林
第13回	H9	ぼくはきみのおにいさん	角田 光代	河出書房新社
第14回	H10	ナイフ	重松 清	新潮社
第15回	H11	ウメ子	阿川 佐和子	小学館
第16回	H12	ニライカナイの空で	上野 哲也	講談社
第17回	H13	翼はいつまでも	川上 健一	集英社
第18回	H14	麦ふみクーツェ	いしいしんじ	理論社
第19回	H15	人形の旅立ち	長谷川摂子	福音館書店
第20回	H16	ペーターという名のオオカミ	那須田 淳	小峰書店
第21回	H17	ぎぶそん	伊藤 たかみ	ポプラ社
第22回	H18	空をつかむまで	関口 尚	集英社
第23回	H19	しずかな日々	椰月 美智子	講談社
第24回	H20	戸村飯店青春100連発	瀬尾 まいこ	理論社
第25回	H21	トーキョー・クロスロード	濱野 京子	ポプラ社
第26回	H22	おれのおばさん	佐川 光晴	集英社
第27回	H23	鉄のしぶきがはねる	まはら 三桃	講談社
第28回	H24	きみはいい子	中脇 初枝	ポプラ社
第29回	H25	世界地図の下書き	朝井 リョウ	集英社
第30回	H26	クリオネのしっぽ	長崎 夏海	講談社
第31回	H27	いと森の家	東 直子	ポプラ社
第32回	H28	Masato	岩城 けい	集英社
第33回	H29	キジムナーkids	上原 正三	現代書館
第34回	H30	ペンギンは空を見上げる	八重野 統摩	東京創元社
第35回	R1	あららのはたけ	村中 李衣	偕成社
第36回	R2	もうひとつの曲がり角	岩瀬 成子	講談社